

## STEP BY STEP

すっかり秋らしくなってきたと思ったら、あっという間に冬が訪れてしまいました。気温や湿度が下がるとウィルスの動きが活発になるという専門家もいます。気をつけて過ごしたいですね。

9月26日(土)は当会の総会を兼ねた第2回冤罪犠牲者主催イベント『高杉晋吾講演会』(スペシャルゲスト:安田聡)を無事に開催することができました。高杉晋吾さんはいち早く袴田事件を取り上げ、『地獄のゴングが鳴った』などの著書を発表された闘うジャーナリストです。87歳になられた今も瞳の奥には闘志がメラメラ燃えているようでした。安田聡さんは部落解放同盟で狭山事件の再審闘争をはじめ、差別問題や人権問題に取り組んできた方です。有意義なイベントになったと思います。この日の様子はYouTubeで公開しています。YouTubeで「冤罪犠牲者の会」を検索していただくか、下記URLで視聴できます。是非、ご覧ください。

<https://youtu.be/oxAH0Af1GLE>



ところで、冤罪関連で「嬉しいニュース」というと、かなり限られてしまいますが、冤罪犠牲者の会の共同代表でもある青木恵子さんの日頃の活動が評価され、多田謡子反権力人権賞を受賞することになりました。青木さんは(自分が獄中にいるとき、手紙が一番うれしかったから、と言って)移動中の電車内ではいつも獄中の誰かに手紙を書いています。華奢な身体で仲間のために全国を飛び回っていて、冤罪犠牲者たちを支えています。このニュースを聞いて思わず泣きそうになりました。自分のことのように嬉しくなりました。

<https://tadayoko.net/kiroku/2020/2020osaso.html>

湖東記念病院事件の西山美香さんの13年間に及ぶ逮捕・勾留・服役に対しては、約6000万円の補償が決定されました。刑事補償法が定める上限の1日12500円が支払われることになったわけですが、若い女性から恋愛・結婚・出産の機会を奪っておいて、警察や検察からの謝罪はなし。滋賀県警は「捜査・取り調べに誤りはなかった」と開き直っています。冤罪をなくそうという姿勢が全く感じられないのは残念というしかありません。

まだまだ道は険しく、長いと感じています。(なつし聡)

### ■冤罪被害アンケートについて

前号でもお知らせいたしましたが、再度掲載いたします。締め切りはあるのか? というお問合せも頂戴しています。締め切りは設けていません、とお答えしていましたが、締め切りがないとなかなか回収がはかどりません。このアンケートは冤罪被害の実態を明らかにし、それを集計して、資料として活用していくことはもちろんですが、多くの国会議員に理解してもらうことが目的の1つです。なるべく早く冤罪被害の実態を把握したいと思います。是非、アンケートにご協力ください。第2回の締め切りは年末とさせていただきます。アンケート用紙は下記URLでダウンロードできます。宜しくお願い致します。

<https://enzai.org/archives/441>

ダウンロードの方法が分からない場合はお問合せ下さい。(事務局)



## 救済の対象から運動の主体へ

皆さん、こんにちは！ 9月に総会を終えて、次の目標を作って確実に前進していきたいです。いま、必要なことは『運動の形をつくる』ことだと考えています。かつて様々な当事者の会がありました。犯罪被害者の会や私が関わったハンセン病家族訴訟の原告団、それぞれに大きな成果をあげましたが、それができたのは「当事者の声」があったからです。

偉い学者や専門家の知識は大切ですが、それだけではこの国は動きません。やはり最後には当事者が主体となった運動が必要なのです。

当会は冤罪犠牲者が主役です。今まで孤立していた仲間が手を携えて、声をあげるための会です。社会から隠され、見えなくされている冤罪被害を可視化するということです。例えば法改正に向けて、国会議員に訴えたり街中でアピールしたり、そんな時に絶対必要なのは皆さんの声なのです。そこで発言できる人を今から育てたいし、ノウハウを共有したいと思っています。今は事務局が会報という形で皆さんの声を届けていますが、もう一歩進んで、リアルな仲間づくりをやりませんか？ きっと当事者のみなさんにとってもかけがえのない財産となります。はじめは救済の対象である弱い立場の被害当事者が、運動によって仲間を作り、自分の被害を語れるようになるのです。闘いは人を強くします。それこそが運動の醍醐味です。

そのために2つのことを提案します。ひとつは何度かお知らせしている冤罪アンケートです。すでに回答が少しずつ送られてきてはいるのですが、統計を取るためにはもう少し集まってほしいと思っています。もうひとつは当事者だけが集まる交流会です。『獄友』という映画がありましたが、当会発起人の桜井昌司さんも獄中仲間との語らいが雪冤を晴らすうえで大きな希望となっていました。今はほとんどの冤罪犠牲者は分断され孤立しています。当面は会員の方優先で、当事者のみが参加できる交流会をやりたいと思っています。近日中に日程を決めてお知らせします。(ノジマミカ)

## 無名の冤罪犠牲者の一人として

私は昨年とある罪状で逮捕・勾留されました。全く身に覚えのない事件で、当初から一貫して否認した結果、約15日後に不起訴となりました。不起訴になることができたのは、いくつかの大きな幸運が重なった結果でした。

まず、夜に逮捕されたまま警察に連れていかれ、「弁解を録取します。何か言いたいことはありますか」と言われたとき、刑事ドラマの知識で「弁護士を呼んでください」と言い、知人の弁護士が夜中に駆けつけてくれました。ほぼ面識のなかったその先生に、釈放まで熱心な弁護をしていただくことができました。また私はアリバイはなかったものの、事件のあったとされる日はうつ病により、とても「犯行」を行える状況ではありませんでした。警察は逮捕するまでそのことを把握していなかったのです。精神科の主治医も、犯行を行えるような病状・性格ではないと証言してくれました。

これらの幸運のどれか一つが欠けても、私は今頃無実の罪で収監されていたかもしれません。警察の取り調べは利益誘導や脅迫、嫌がらせに満ちた違法で過酷なものでした。まだうつ病治療中だった当時、否認を貫けたことは奇跡でした。

この事件は日本の中では小さな無名の事件ですが、その後の私の人生には甚大な影響を与えることになりました。私は実名で逮捕を報道され、自営業として独立した今もインターネットに当時の記事や、匿名の人びとの誹謗中傷が残り続けています。未だに街で警官を見かけると動悸が起り、日々うつ病の再発に怯えています。

この事件で私が知ったのは、冤罪というのはごく少数の不幸な人にもみ起こるのではなく、極めて日常的に、誰にでも起こりうるということです。そして、今も日本の多くの留置所や拘置所、刑務所で、誰にも聞いてもらえぬまま、無実を叫び続けている人がいるのだらうということです。私は今22歳ですが、残りの人生をかけて、逮捕を有罪とみなす風潮、実名報道、人質司法、密室の取り調べ、調書主義、その他の無辜を犯罪者に仕立て上げる圧力を、少しでも改善できればと思っています。(SOED)

## 福岡県若松警察署員による冤罪不当逮捕事件についての概要

※現在公判中ですので、今回に限り警察官の実名を掲載することを自粛致します。

当時、別居していた前妻と我が子について争っていました。同意なく連れ去られたことで私は前妻の実家前に向いて、大声で子を返すよう訴えたりもしました。すると、間もなく110番通報され警察が駆けつけてくる、そしてその度衝突するといったことが、逮捕されるまでに十数回繰り返されていました。

2016年11月2日、いつものように子の返還を求め、前妻実家前に行くと人の気配がなく、そのため前妻の実妹の家へ事情を確かめに向いました。私の立場からすれば我が子が行方不明になったので、探すのは当然です。すると、実妹の家の前で警察官が通報を受け、すでに待ち構えていました。その日は警察官と口論になるのが面倒だと考え、私はそのまま通り過ぎようと思いました。すると警察はサイレンを鳴らして追いかけてきて、信号にひっかかったところで、強引に私の車両の前後をはさみ込み、職務質問を始めました。

免許証の提示を求められ、服の上から所持品検査も受けました。やましいことなど何もなかったので素直に従いました。次に車両検索をしようと言いだしたので、車両検索には応じるが、指紋等で車が汚れるのが嫌だったので、手袋をはめるならという条件を明確に警察官3名に伝えました。すると一番年配の警察官が「手袋をしなければならないという法律はない」と言い、同時に「やれ」と他の警察官に命じ、自らも助手席側の車内検索を違法とされる強制捜査にて開始しました。

私は「待て、ふざけるな！止めろ！」と抗議しながら、車両検索を止めさせようと思いました。すると警察官は振り返って両手で私の両肩を思いっきり突き飛ばしました。私は倒れまいととっさに袖口をつかみました。間もなく「公妨、逮捕」と声がして、警察官3人に羽交い絞めにされ、手錠をかけられました。

逮捕の翌日、若松署員は複数名で前妻宅を訪れ、それまで前妻が拒み続けた脅迫での被害届を強引に提出させました。また車両検索は任意での捜査だったはずですが、「薬物使用を疑った」と「緊急性」を主張して強制捜査の正当性を現在、警察側は主張しています。当たり前ですが当たり前ですが、車内からその後も一切問題となるものは発見されていません。また、不可思議なことに勾留後一度たりとも薬物検査など求められたこともありません。

保健体育科の教諭で、たばこや酒にすら全く興味のない私にとって、侮辱され、プライドを傷つけられたことにも強い憤りを覚えずにはられません。警察官の違法な捜査に対し、民間人は何の抵抗もできず、なされるがまま我慢するしかないのでしょうか。警察は、ひとりくらいの一般人が何を騒ごうが、何を主張しようが、いつでも簡単に踏みつぶせると思っているのではないのでしょうか。「面倒臭いから逮捕して黙らせよう」これが若松警察署が描いた冤罪の青写真です。

事実無根の事件で実名報道され、私は教職も失いました。友人知人との関係も、恥ずかしさと体裁の悪さから、私の方から断ってしまいました。しかし私は逮捕されるようなことは絶対していませんので、真実はいずれ明らかになる、そう信じています。ですから当然無実の罪で解雇された明治学園にも、近々胸を張って帰ることができる日が来ると信じています。最近では、当時の生徒達が「田仲はそんなことしていない」と私を信じてくれていることがSNSを通じて伝わってきています。

冤罪を晴らし、反社会勢力組織そのものである警察に復讐するために、そして冤罪をでっちあげた犯罪者そのものの警察官3名が国民裁判によって裁かれ、社会から追放されるべく、今後できることは何でもする覚悟です。（田仲俊宏）

### ■会費納入のお願い

2019年度、2020年度に頂戴した会費（カンパを含む）の領収書を全ての会員の皆様へ近日中に郵送する準備をしています。まだ振り込んでいない、という方は会費納入にご協力ください。宜しくお願い致します。（事務局）



## ■冤罪ラジオ番組『塀の中の白い花～ほんとに何もやってません』

日本で唯一の冤罪ラジオ番組『塀の中の白い花～ほんとに何もやってません』はFMたちかわから第1・3・5月曜日23時半に放送中。ただし、この番組は全国放送ではありません。放送エリアは限られています。しかし、ネットがあれば世界のどこでも聴けるサイマル放送で、地球の裏側でも聴けるという摩訶不思議な仕組みに支えられています。

過去放送分アーカイブはネットで聴けます。「seesaa 塀の中の白い花」で検索してみてください。<http://enzaibusters.seesaa.net/>

## ■イベント情報

公開学習会『再審法改正をめざして』11月29日（日）14:30～16:30

講師：周防正行さん（映画監督、「再審法改正をめざす市民の会」共同代表）

会場：清瀬市アミューホール（西武池袋線清瀬駅北口下車徒歩1分）

参加費：500円（70名まで入場可）

申込制：下記の電話かメルアドにお名前と電話番号をお知らせください。

電話：080-3494-6126（おおたけ） E-mail：hakamada-sukukai@h2.dion.ne.jp

主催：無実の死刑囚・袴田巖さんを救う会

<https://www.hakamada-sukukai.jp/>

＝＝冤罪犠牲者の会は当会の主旨に賛同していただける仲間を集めています！＝＝

「冤罪犠牲者の会」が結成されたのが昨年3月2日。お陰様で少しずつ会員が増え、現在、120名を超えました。冤罪に巻き込まれてしまった方、冤罪犠牲者を支援している方、冤罪撲滅に力を貸してくださる方、などで構成されています。冤罪に関心をお持ちの方がお近くにいらっしゃったら是非、声をかけてあげてください。

年会費：個人会員（正会員）2000円 賛助会員1口1000円

### 「冤罪犠牲者の会」の口座

◎現金払込・ゆうちょ間送金の場合

記号番号 00150-7-515181

口座名称 冤罪犠牲者の会

◎他行からの送金の場合

金融機関 ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）

支 店 ○一八 店（ゼロイチハチ店）店番 018

預金種目 普通 口座番号 9884160

口座名義 エンザイギセイシヤノカイ



### ■CD「Free Hakamada」発売中！

Amazonや全国のCDショップでご注文できます。売上は冤罪撲滅を目指す支援団体に寄付します。

◎PayPalでの振り込みは当会ホームページの「当会について」から「入会のお申込み」ページにある会費支払方法をご参照ください。

◎冤罪犠牲者の会事務局は常駐スタッフがおりません。複数の冤罪関連団体が桜井司法研究所を共有しています。お急ぎの場合は080-5182-3911（冤罪犠牲者事務局長：なつし聡）へお電話ください。個人の電話番号ですので、この点はご了承ください。

発行：冤罪犠牲者の会

〒160-0023東京都新宿区西新宿7-5-13 第3工新ビル201号室（桜井司法研究所内）

<https://enzai.org/> e-mail：info@enzai.org

発行責任者 なつし聡